

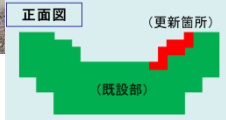
木製治山ダムの効率的な修繕方法の開発 (農林センター)

木製治山ダムの修繕方法を検討した結果、経費や施工性の点から部材交換を基本的な方法とし、部材交換が難しいダム全体の修繕などには、既設埋設や増厚補強することが有効

修繕が必要な木製治山ダム

基本方法

部材交換



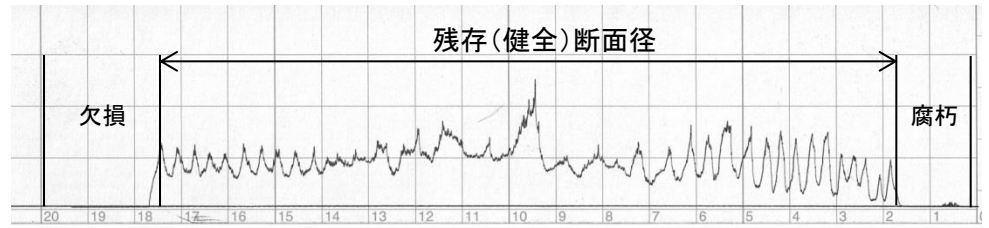
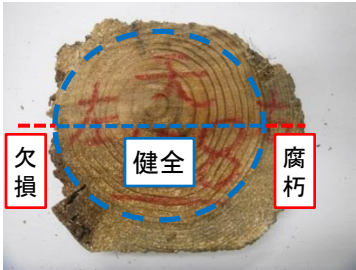
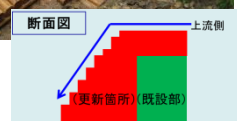
修繕箇所が広範囲

既設埋設



景観保全への配慮が必要など

増厚補強



レジストグラフによる部材残存断面径の測定 (波形がある=まだ腐っていない)
→残存断面径が10cm以下になったら、修繕を検討

・木製治山ダムの修繕は、部材交換を基本としながらダム部材の劣化状況に応じた手法を選択

・修繕の必要性は、レジストグラフを用いた部材残存断面積推定で判断

- ・部材の劣化速度は、部位 (本体・袖) ごとに異なりますが、ピロディンやレジストグラフを用いた現地調査で、劣化状況を把握できます。
- ・レジストグラフを用いて、部材残存断面積を推定し、その結果を基に修繕の必要性を判断することが可能です。